

フードマイレージについて考えよう!

「フードマイレージ」という言葉をご存じですか。「食料の輸送距離」の意味であり、外国産の食料はフードマイレージが大きくなり、地元食材は小さくなります。

例えば、トマトをイタリアから運んでくる場合。①農場から市場まで②市場から飛行場まで③イタリアの飛行場から日本の飛行場まで④日本の飛行場から市場まで⑤市場からスーパーまで⑥スーパーから食卓までというルートが考えられ、輸送に関わるエネルギーをたくさん消費します。一方、新潟の農産物直売所でトマトを買った場合。①農場から直売所まで②直売所から食卓まで、ということで輸送エネルギーはとても小さく、とってもエコです。お買い物をする際、フードマイレージについても考えてみて下さいね。

「Eco列車でいこう!」～第91回 只見線と地酒と格安りんご～ (CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!)

1月7日(土)朝8時前の上越線「小出」駅。さすがに小出は冷える。マイナス2℃だ。5番線ホームには2両のディーゼルカーが停まっている。乗客は約10名。いずれも写真を撮ったり、時刻表を見たりしている。この列車には鉄道ファンしか乗っていないのかもしれない。全国を探しても、地元客がいない列車は珍しいだろう。

只見線只見行は1日3便。7:58のこの列車に乗り遅れると、次の出発は13:11まで無い。そんな貴重な列車ではあるが、のんびりと発車し、魚野川を渡った。「越後広瀬」で女子高生が1名乗車。その子は旧守門村の中心駅「越後須原」で下車し、代わりにおばさんが乗車、おばさんは「入広瀬」で下車した。地元客の乗降はこれだけだ。平日は通勤の高校生で混むのかもしれないが、土曜日の今日はまったく閑散としている。

新潟県最後の駅「大白川」を通過し山峡をしばらく進む。並行する国道252号線は冬期通行止でクルマはいない。6359mの六十里越トンネルに入る。暗闇から抜けると右手に田子倉ダムを水面を広がり、終点「只見」に到着した。

代行バスに乗り換える。この先「会津川口」までの約27kmは2011年の「新潟・福島豪雨」によって、鉄橋が流出した区間である。この区間の1日平均通過人員は35人。一方復旧にかかる費用は81億円。廃止は免れないと思われていた。しかし先日、2020年度中の復旧に向けて動き出すというニュースが流れた。「只見線は奥会津地域の地方創生に不可欠」という地元自治体の英断に拍手を送りたい。

さて、代行バスの乗客も約10名。さっきと同じ鉄道ファンの面々である。皆、「会津川口」まで直行する中、1人「会津大塩」のバス停で下車した。徒歩10分で「大塩温泉共同浴場」に到着。温めの炭酸泉が豪快にかけ流しされている。1時間ほど温泉を堪能し、となりの「会津横田」バス停まで歩く。バス停前のなんでも屋さんで、ビールや地酒、おつまみ、手作りおにぎり、3個98円という格安の会津産りんごを購入した。

「会津川口」から、12:35発の会津若松行に乗車。左の車窓に展開する只見川の流れる雪景色を満喫しながら、地酒を飲み、りんごをかじった。

